# 日野車故障診断アプリケーション
Version 1.1

# 取扱説明書

# ご利用の前に

・この取扱説明書をよくお読みになり正しくご使用ください。
・この取扱説明書は、製品と一緒に大切に保管してください。

## 警告

(1) 故障診断機本体から煙が出る、異臭がするなどの異常がある場合は、ただちに車両のイグニッションスイッチと診断機本体の電源をOFFにして、ダイアグケーブルを抜いてください。
※ 火災の原因となります。

## 注意

(1) 本アプリケーションは故障診断機専用です。販売元が認定する診断機以外の他メーカーの診断機には使用できません。
※ 診断機本体、アプリケーションソフトの故障の原因となります。
(2) 本アプリケーションは日野車専用です。他メーカーの車両には使用できません。
※ 他メーカーの車両に使用すると、車両に悪影響をおよぼす恐れがあります。
(3) 車を修理する場合は、カーメーカー発行の整備マニュアルに基づき修理を行なってください。
(4) 販売元で認定している故障診断機用アプリケーションソフト以外のソフトやデータ類を、付属のCFカードにインストールしないでください。
※ 診断機本体の誤作動や故障の原因となります。
(5) 診断機本体にCFカードを取り付ける時や取り外す時は、実行中のアプリケーションソフトを停止させ、電源をOFFにしてください。
※ アプリケーションソフト実行中や電源ONの状態でCFカードの取り付けや取り外しをすると、故障診断機本体やCFカード内のプログラムやデータを破壊する恐れがあります。
(6) 診断機本体に拡張計測ボードを取り付ける時や取り外す時は、実行中のアプリケーションソフトを停止させ、電源をOFFにしてください。
※ アプリケーションソフト実行中や電源ONの状態で拡張計測ボードの取り付けや取り外しをすると、故障診断機本体やCFカード内のプログラムやデータを破壊する恐れがあります。
(7) CFカードを抜いた状態で故障診断機を長時間、放置しないでください。
※ CFスロット(挿入口)を開放したままにすると、本体内部にホコリや水滴が入り、故障となる原因を誘引します。
(8) CFカードを水に濡らしたり、曲げたり、落としたり、衝撃を与えないでください。
※ 故障の原因となります。
(9) CFカードを挿入する時は、診断機に向きを合わせ挿入してください。
※ 向きを間違えると故障の原因となります。
(10) CFカードを分解、改造しないでください。
※ 故障の原因となります。
(11) CFカードのコネクタ部分または内部に異物を入れないでください。
※ 故障の原因となります。
(12) CFカードを直射日光のあたる場所、温度の高い場所、湿度の高い場所、ほこりの多い場所に放置しないでください。
※ 故障の原因となります。
(13) CFカードのコネクタ端子に指で直接触れないでください。
※ 故障または接触不良の原因となります。
(14) ケーブルの抜き差しは、コネクタハウジングをつかんで行ってください。
※ ケーブルを直接引っ張ると断線の原因となります。

# 目　次

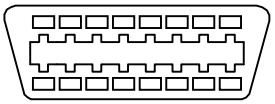

1.　サポート範囲 ..... 1
1.1.　対象車種 ..... 1
1.2.　診断項目 ..... 1
1.3.　使用言語 ..... 1
2.　準備 ..... 2
2.1.　接続 ..... 2
2.2.　各種設定 ..... 2
3.　操作 ..... 3
3.1.　車両故障診断/点検メニュー ..... 3
3.2.　車両故障診断メニュー ..... 4
3.3.　車種の選択 ..... 5
3.4.　システム選択メニュー ..... 5
3.5.　システム診断メニュー ..... 6
3.6.　ダイアグコードの点検 ..... 7
3.6.1.　ダイアグコードの点検 ..... 7
3.6.2.　ダイアグコードのクリア ..... 8
3.6.3.　データ保存 ..... 9
3.7.　保存データの表示 ..... 10
3.7.1.　カテゴリー選択 ..... 10
3.7.2.　保存データの表示 ..... 11
3.8.　画面保存データの表示 ..... 12

# 1. サポート範囲

## 1.1. 対象車種

本アプリケーションは、下記に示すすべての条件を満たす日野車のコントロールユニットで故障診断を行なうことができます。

- 国際標準規格の診断コネクタ(SAE J1962のコネクタ)を装備した車両。
- 本アプリケーションが診断対象としているシステムで、かつK-LINE(7番端子)、CANで故障診断通信を行うコントロールユニット。
  ※ダイアグノシスコントロールライン(診断コネクタNo.1ピン)を使用するコントロールユニットについてはサポートしていません。



[国際標準規格診断コネクタ]

## 1.2. 診断項目

本アプリケーションは、「1.1.対象車種」に記載の条件を満たすコントロールユニットに対して、下記の診断機能をサポートしています。

<システム別サポート診断機能>

| 診断機能 | 診断システム | | | | 参照項 |
|---|---|---|---|---|---|
| | エンジン | トランスミッション | ABS | エアバッグ | |
| ダイアグコードの点検 | ○ | ○ | ○ | ○ | 3.6.1 |
| ダイアグコードのクリア | ○ | ○ | ○ | ○ | 3.6.2 |

## 1.3. 使用言語

本アプリケーションは、日本語のみを対象としています。

# 2. 準備

## 2.1. 接続

(1) 診断車両が対象車種(「1.1.対象車種」参照)であることを確認してください。

| | |
|---|---|
| ⚠ 注意 | 対象車種以外の車両に使用すると、車両に悪影響をおよぼす恐れがあります。 |

(2) 診断機の電源がOFFであることを確認し、CFカードを挿入してください。
(3) 診断機にダイアグケーブルを接続してください。
(4) 車両のイグニッションスイッチがOFFであることを確認し、下図を参考にして車両側診断コネクタにダイアグケーブルを接続してください。

(5) 車両のイグニッションスイッチをONにします。

## 2.2. 各種設定

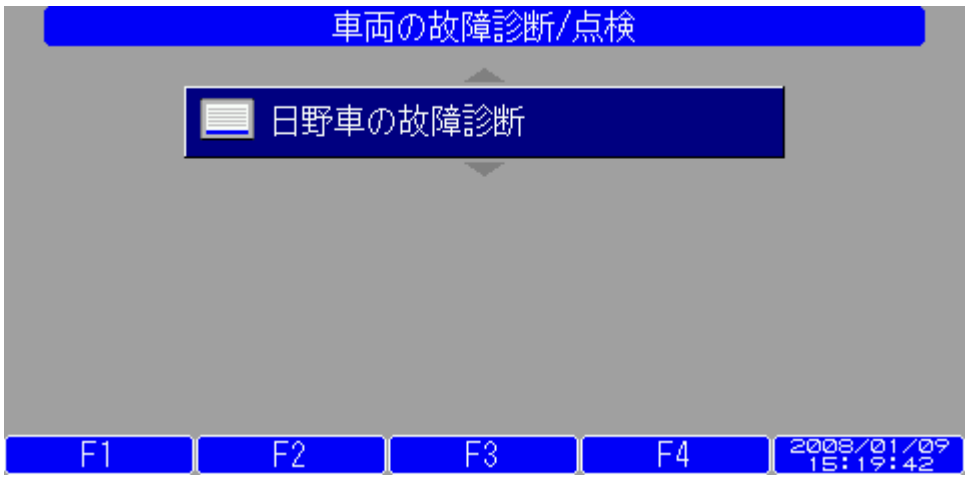
故障診断を実行する前に「ダイアグモニタメニュー」より「ダイアグモニタの設定」を実行して、以下の項目を設定してください。設定方法等に関しては、診断機本体の取扱説明書をご参照ください。

| 項目 | 設定内容 |
|---|---|
| 日付・時刻の設定 | 日付時刻が違っていたら正しく設定しなおしてください。 |
| キープッシュ音 | キーを押した時のプッシュ音を設定してください。 |
| 単位の設定 | 国際単位系であるSI単位に設定してください。<br>[SI単位] 速度 km/h<br>温度 ℃<br>圧力 kPa<br>空気流量 g/s |

# 3. 操作

## 3.1. 車両故障診断/点検メニュー

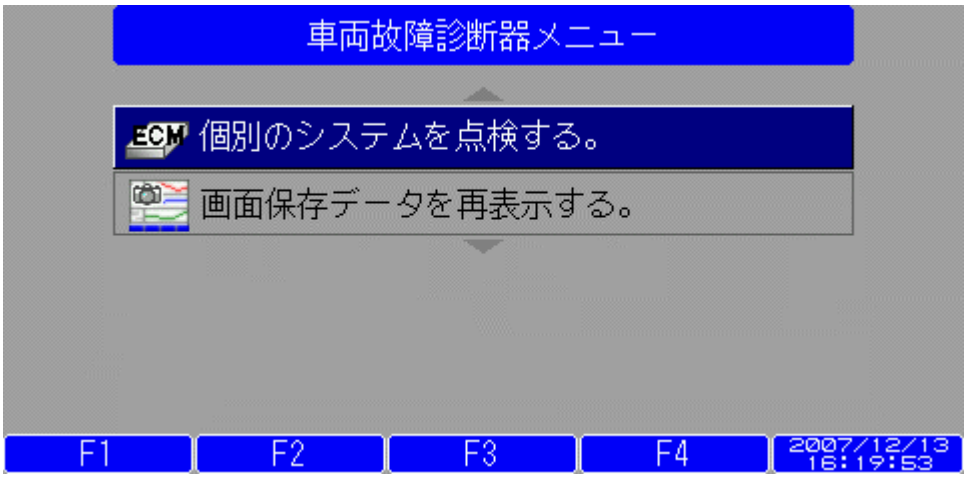
「ダイアグモニタメニュー」で「車両故障診断/点検をする」をYESで選択すると、車両故障診断メニューを表示します。




このメニューで「日野車の故障診断」をYESで選択してください。

「日野車の故障診断」を選択すると「アプリケーションロード中… しばらくお待ちください」と表示されます。CFカード内のアプリケーションを実行する準備を行なっていますので、電源を切らずに数秒間お待ちください。

## 3.2. 車両故障診断メニュー




メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

| メニュー項目 | 参照項 |
|---|---|
| 個別のシステムを点検する | 「3.3.車種の選択」 |
| 画面保存データを再表示する | 「3.8.画面保存データの表示」 |

## 3.3. 車種の選択

故障診断を実行するための準備として車種の選択メニューが表示されます。 診断を行う車種にカーソルを合わせYESで選択してください。

## 3.4. システム選択メニュー

故障診断を行なうシステムをYESで選択してください。

システムを選択すると、故障診断を実行するための準備として車両のシステムと初期化通信を行ないます。
選択したシステムと初期化通信に成功した場合、「3.5.システム診断メニュー」を表示します。

初期化通信でエラーが発生した場合、エラー画面を表示します。この場合、以下の原因が考えられますので確認してください。

① 故障診断コネクタの接触不良およびケーブル断線の確認。
② ダイアグケーブルとの接続の確認。
③ 対象車種の確認。

## 3.5. システム診断メニュー

「3.4.システム選択メニュー」で選択したシステムで診断が可能な機能を表示します。

※ 各システムの診断機能は、「1.2.診断項目」をご参照ください。

メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

| メニュー項目 | 参照項 |
|---|---|
| ダイアグコードの点検 | 「3.6.ダイアグコードの点検」 |
| 保存データを再表示する | 「3.7.保存データの表示」 |

なお、車両側のシステムが選択した機能をサポートしていない場合は、「該当項目なし」画面を表示します。

## 3.6. ダイアグコードの点検

### 3.6.1. ダイアグコードの点検

車両が記憶しているダイアグコード(故障コード)を取得し表示します。「検出ｺｰﾄﾞ」の欄に表示されているダイアグコードにｶｰｿﾙを移動させると、そのダイアグコードの検出条件が画面左の「検出条件」の欄に表示されます。

ダイアグコードが発生していない場合、「DTC無し」を表示します。

〈操作方法〉

| | |
|---|---|
| ↑/↓ | 画面左のカーソルを移動します。 |
| YES/C | 前の画面に戻ります。 |
| S | ファンクションキーの機能を示す表示が切り替わります。<br>F1 DTC消去 F2 F3 F4 画面保存<br>⇕<br>F1 保存 F2 F3 F4 |
| F1～F4 | 次項の「ファンクションキー」をご参照ください。 |

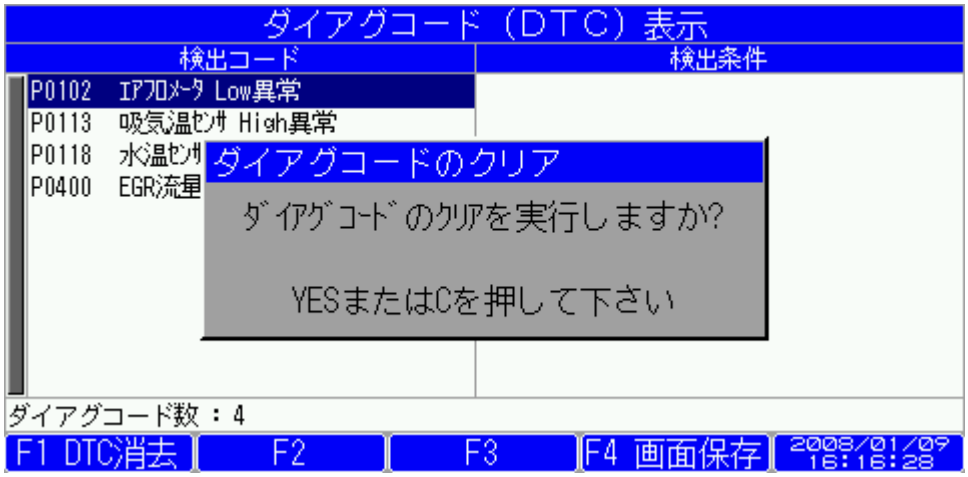
〈ファンクションキー〉

| | |
|---|---|
| DTC消去 | 「3.6.2.ダイアグコードのクリア」 |
| 画面保存 | 画面のハードコピーを保存します。 |
| 保存 | 「3.6.3.データ保存」 |

※ 取得されたダイアグｺｰﾄﾞによっては補足説明や検出条件がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

### 3.6.2. ダイアグコードのクリア

車両に記憶されているダイアグコードをクリアします。



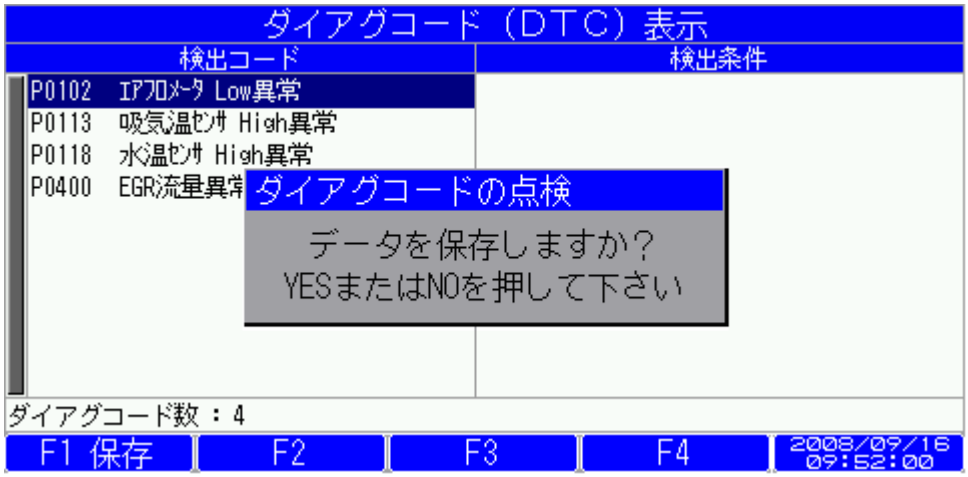

**<操作方法>**

| | |
|---|---|
| YES | ダイアグコードのクリアを実行します。 |
| C | 処理を中止し「3.6.1.ダイアグコードの点検」に戻ります。 |

### 3.6.3. データ保存

CFカードのデータ保存エリアに保存することができます。保存されたデータはいつでも参照することができます。

データ保存確認画面




〈操作方法〉

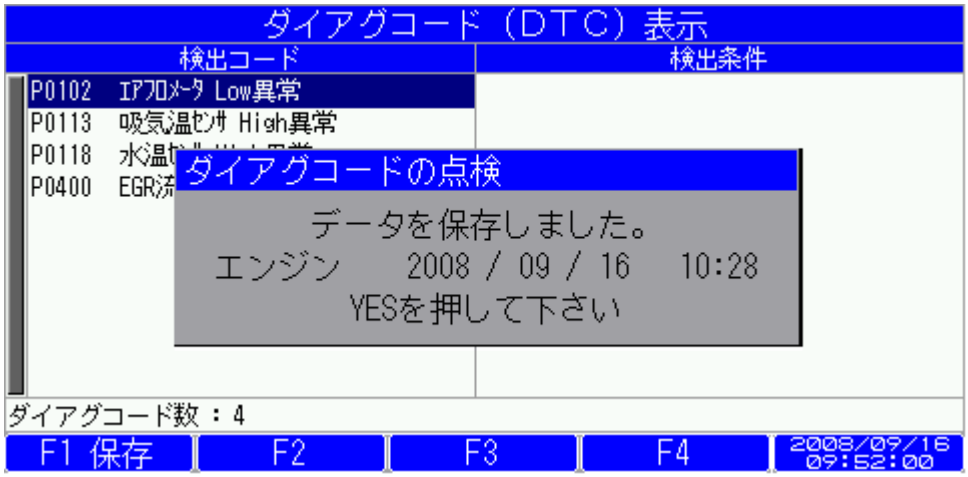
| | |
|---|---|
| YES | データ保存を実行します。 |
| NO | データ保存を中止し、実行前の画面に戻ります。 |

上記画面でYESを押すとデータ保存が実行されます。

※　保存中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。

また、データ保存が完了すると下記の確認メッセージが表示されます。

データ保存完了画面




〈操作方法〉

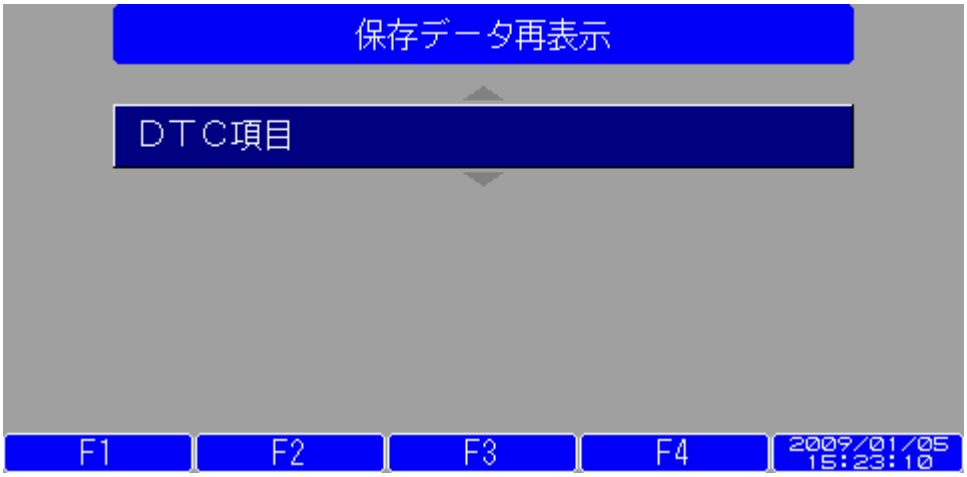
| | |
|---|---|
| YES | 「データ保存」を実行した画面に戻ります。 |

## 3.7. 保存データの表示

「ダイアグコードの点検」によって保存されたデータを再度表示する場合に実行します。

### 3.7.1. カテゴリー選択

「DTC項目」をYESで選択すると、保存データ一覧を表示します。




**<操作方法>**

| | |
|---|---|
| ↑/↓ | カーソルの移動を行ないます。 |
| YES | カーソル上のカテゴリー項目に絞込み、「保存データの表示」を表示します。 |
| C | 「3.5.システム診断メニュー」に戻ります。 |

### 3.7.2. 保存データの表示

選択したカテゴリー項目の保存データを表示します。
保存データがない場合、「保存データがありません」を表示します。
※日付の新しい保存データから順に上から表示されます。

［DTC項目］

〈操作方法〉

| | | |
|---|---|---|
| ↑/↓ | カーソルの移動を行ないます。 | |
| YES | DTC項目 | カーソル上の保存データを読込み、「3.6.1.ダイアグコードの点検」へ移行します。<br>但し、保存データ表示時は「DTCクリア」「保存」機能が実行できません。 |
| C | 保存データの選択を中止し前の画面に戻ります。 | |
| S | カーソル上のデータを選択/非選択状態にします。 | |
| F1 | データ解析対象選択画面を表示します。<br>「カーソル上のデータ」<br>「すべてのデータ」<br>「選択されたデータ」 **※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。**<br>選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」に解析用データとして転送します。 | |
| F2 | カーソル上のデータを削除します。<br>**※ 削除中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。** | |
| F3 | バックアップ対象選択画面を表示します。<br>「カーソル上のデータ」<br>「すべてのデータ」<br>「選択されたデータ」 **※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。**<br>選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」にバックアップします。 | |
| F4 | パソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」でリストア対象に指定したデータをリストアします。 | |

## 3.8. 画面保存データの表示

画面保存によって保存された画面のハードコピーデータを再度表示する場合に実行します。
※日付の新しい画面保存データから順に上から表示されます。

<操作方法>

| | |
|---|---|
| ↑/↓ | カーソルの移動を行ないます。 |
| YES | カーソル上の画面保存データを再表示します。<br>再表示後YESを押すと、この画面に戻ります。 |
| C | 保存データの選択を中止し前の画面に戻ります。 |
| S | カーソル上のデータを選択/非選択状態にします。 |
| F2 | カーソル上のデータを削除します。<br>※ 削除中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。 |
| F3 | バックアップ対象選択画面を表示します。<br>「カーソル上のデータ」<br>「すべてのデータ」<br>「選択されたデータ」 ※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。<br>選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」にバックアップします。 |
| F4 | パソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」でリストア対象に指定したデータをリストアします。 |

## ■お問い合わせについて

この製品について不明な点がある場合や故障と思われる場合には、故障診断機キットに同梱されています故障診断機本体取扱説明書のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

日野車故障診断アプリケーション Version 1.1

取扱説明書

2009年 1月　　初版発行

本書の内容の一部、または全部を販売元の許可なく複写、複製、転載することを禁じます。